

議 事 録

1. 会議の名称	池田市史編纂委員会
2. 開催日時	令和4年3月10日(木) 午後2時00分～4時00分
3. 開催場所	市役所 5階大会議室
4. 出席者 ※委員長：◎ 副委員長：○	《委員》 小田 康德 ◎ 田中 晋作 松永 和浩 《事務局職員》 田淵教育長 亀井教育次長 大賀教育部長 前野生涯学習推進課長 細谷主幹 高野歴史民俗資料館主幹
5. 議 題	(1) 令和元年度以降の市史編纂委員会事業の進捗状況について (2) そのほか
6. 議事経過	別紙のとおり
7. 開・非公開の別 ※非公開の理由	公開
8. 傍聴者数	0名

開 会

教育長 今年度当初の新たな委嘱について、快くお引き受け頂いたこと、お礼申し上げます。コロナ禍の状況でも社会教育の分野では、少しずつではあるが、着実に前進している。市史編纂事業も、広報誌への記事連載や、ホームページ上での資料公開、資料保管場所の整備など、みなさまの多大なご協力・ご理解のもと、できる範囲でひとつひとつ成果を積み上げている。ぜひ今後とも引き続き、より充実した編纂事業になるよう、ご審議いただけたらと考えている。

(1) 令和元年度以降の市史編纂事業の進捗状況について

事務局 前回編纂委員会が開催された令和元年度以降の状況等をご報告する。市史の値下げについては各巻 1 冊 1,000 円に、別巻は 500 円に値下げしたことで、かなりの販売促進効果があり、値下げ 3 年目の今年度まで効果は落ちつつも継続している。また、同時期に取扱を開始したふるさと納税の返礼品としても一定数申し込みがあった。

市史編纂の成果の市民への還元として広報での記事連載のほか、池田市のHP上に、市史編纂担当所蔵の資料の公開を始めた。また令和元年から市史編纂担当が主になり、写真展を中央公民館で 3 回開催、会場内で行ったアンケートでは好評で、市民に向け市史のアピールになったと考えている。

レファレンス対応も庁内外問わず行っており、そこから新たな行政刊行物や資料を得ることもあり、丁寧に対応し続けたい。

資料の保存については旧細河小学校にラックなどを運び込み、環境を整えつつあり、これから資料の配架を進めていく状況。ただし、同所は劣化が進んでいるため長期保存場所としては不適合。

なお、資料調査等行う際は歴史民俗資料館と協力して行うことも多く、連携を深めた。

委員 市史の値下げ販売に関しては成果があったと言えるが、市内の購買力もそろそろ限界だろうから、市外や研究者に向けての販売促進を考えては。レファレンスや資料の公開・活用についても実績を積んでおり、今後もこの体制を維持して欲しい。

委員 写真展については展示に工夫が見え、親しみやすさを感じ、市民へのアピール効果は良いと思う。

事務局 今後の課題について。歴史民俗資料館との連携は深まっているが、データベースの共有にはセキュリティやコストなどの課題から実現していない。

大阪府内で自治体史を編纂中などの 10 自治体で構成している大阪自治体史連絡協議会の代表幹事に、令和 4 年度に池田市が就任する予定。講演等を企画しなければならず、委員の皆様にも協力をお願いしたい。

資料の収集はさまざま進んでいるが、行政文書の収集が機能していない。1 部署で対応出来る問題では無く、市としての制度化が必要。

体制・人員について。市史編纂の業務は片手間にできるものでなく、市史専門の職員が必要。職員の育成を考えると新規採用に取り組む時期に来ている。

最後にダイジェスト版の編集について。対象を小学4・5年生以上向けに、加えて活字慣れしていない人や郷土史を簡単に知りたい人、転入者などに向けて発信したいと考えている。以前の審議会で、最初から書籍の形にせずWEB上で公開しては、という意見をいただいたことから、まずはHPでの公開を考え、現在は近隣市のダイジェスト版を参考に編集方針を考えているところ。

委員 小学生向けのものであれば、子どもたちの興味関心をよく知る教育現場の教諭たちに意見を聞いてはどうか。

事務局 学校現場でも使えるよう、実際に教諭の意見を聞いて取り組みたい。

委員 人員の確保は大変だが、市史の業務の内容は人員で決まる。また、異動してすぐできるような仕事でないので、十分引継期間を設けるべき。

委員長 人員体制は今でも最低限なので、市史の業務が現状でも出来るではないかという議論にならないようにしてもらいたい。また、行政文書の収集は、全庁的に取り組む必要がある。なお、ダイジェスト版は是非安直に発信するのではなく、慎重に方針を決め取り組んでほしい。

閉 会